

4. まとめと今後の展望

本報告書では、GLC 日本語プログラム開発における、2021 年度までの Can-do プロジェクトについて、第 1 ステップと第 2 ステップの途中までの成果について報告した。第 1 ステップは、全学における教育課程における枠組みの中で、新日本語カリキュラムを位置づけ、確定することであった。第 2 ステップは、科目内容の洗練化に向けた活動で、その成果である Can-do リスト 2021 として、「①授業活動別 Can-do リスト」「②GLC（日本語）基礎学修能力 Can-do リスト」「③基礎技能系 Can-do リスト」「④アカデミック・コンピテン ス Can-do リスト」の 4 種を報告した。

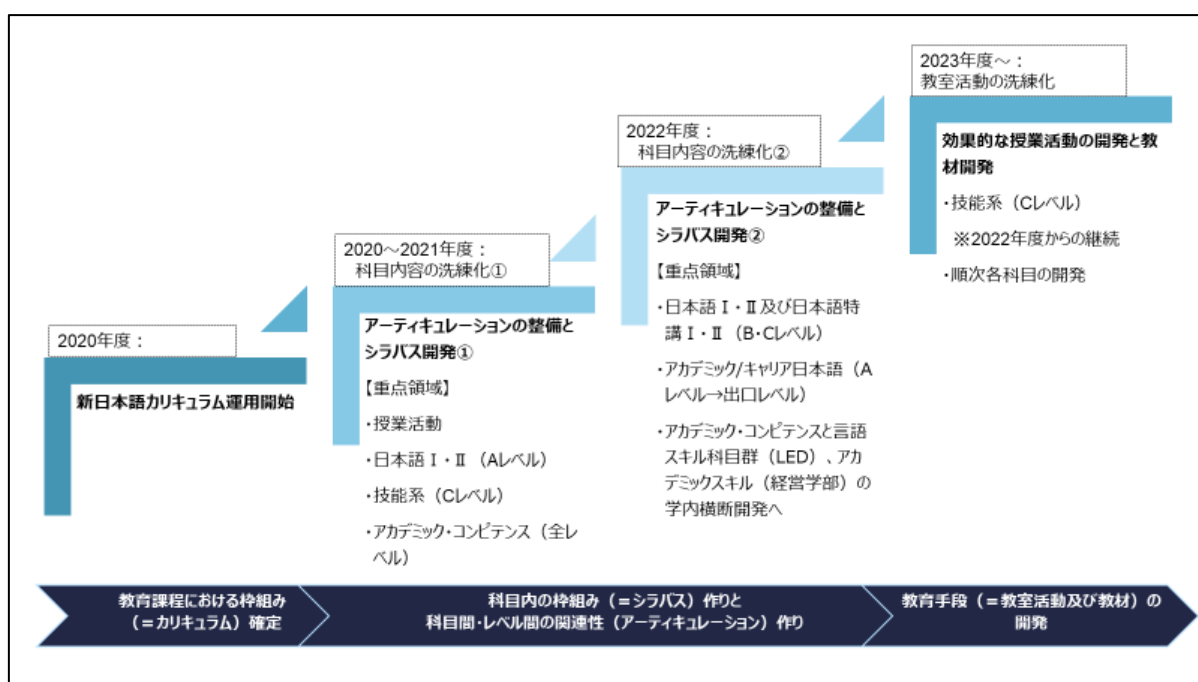


図1 GLC 日本語プログラム開発 4 年計画

図1のとおり次年度は、科目の洗練化を継続する。対象分野は①B・Cレベルの日本語 I・II及び日本語特講I・II、②アカデミック日本語とキャリア日本語となる。また、学内関連部署との横断型アーティキュレーション整備に向け、アカデミック・コンピテン ス Can-do リスト 2021 を学習・教育開発センターが全学的に展開している言語スキル科目群 (言語技術、アクティブ・リーディング、アクティブ・ライティング等) や、経営学部で2022年度に新規開講される中国人留学生対象科目「アカデミックスキル」との連携検討の際の可視化・共有のためのツールとして使い、結果を日本語科目へもフィードバックし、科目の洗練化につなげていきたい。

基礎技能系科目については、2022年度より教材開発が本格化し、Can-do リスト 2021 が GLC 基礎技能系科目の方針を具体的に可視化したものとして、学内関係者だけではなく外部教材作成委託者との共有のためにも活用されていく。併せて、教室活動の開発も行っていく予定である。こうして基礎技能系科目は、教育手段の開発という第3ステップに移行していくこととなる。

それぞれの Can-do リストの内容は、今後アーティキュレーションが整備されていく中で

更新される可能性がある。そのため、現時点のものにはリスト名に年号を付すこととした。Can-do リストは、今後もプロジェクトメンバー間で精査を繰り返しながら、常に開発途上にあると言える。

文責：齊藤真美